

チャレンジ！野菜づくり

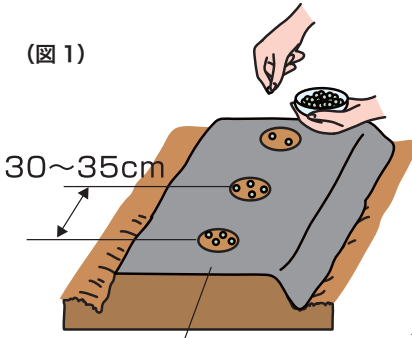
取れ立ての新鮮な味が格別なサヤエンドウ



栽培管理が楽で、失敗も少ないサヤエンドウ。店頭売りでは得られない新鮮さが魅力で、家庭菜園にはぜひ取り入れたい野菜です。

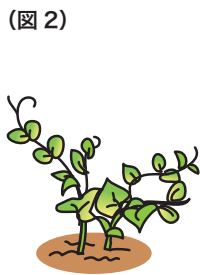
カロテン含有量が多く、分類は緑黄色野菜。ビタミンC、食物繊維も豊富。使い道はサラダや汁の実、煮物にと広く、飽きずに重宝します。育て方のポイントを列挙します。

(1) 連作畑を避ける。



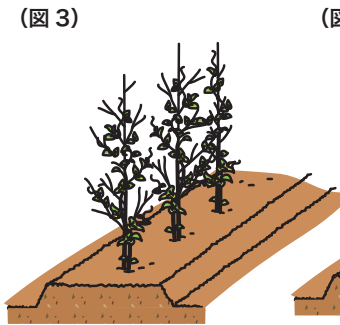
(図1)

黒色ポリエチレンフィルム



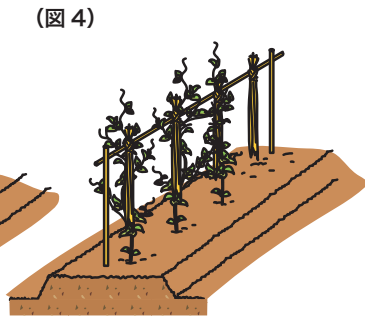
(図2)

発芽し伸び始めたら2本を残して他は間引く



(図3)

竹ササや木の枝につるを絡ませる



(図4)

支柱を立て、稲わらをつるを絡ませる

(2) まきどきを誤らない。
 (3) 冬に株が風で振り回されないうような支柱、風よけを設ける。
 (4) 伸びだしたつるがよく絡むよう、しっかりした支柱を立てることなどです。

種のみき方については図1を参照してください。

照くください。

サヤエンドウは茎葉が柔らかく、越冬中に株が風に振り回され、茎が折れたり枯死したりしやすいので、草丈が15~20cmに伸びたら短い支柱を交差させて立て、株を固定したり、畝に沿って稲わらを半折れにし、下方を土に埋め、簡単な風よけを作ったり、べた掛け資材で覆ったりして寒風から守ってやります。

越冬後草丈が20~25cmぐらいになる頃には巻きひげも出るので、早めに支柱を立て、これに絡ませるようつるを誘引してやりましょう(図2)。支柱材としては、細枝のたくさん付いたササや、子枝の付いた木の枝(図3)などが最良ですが、入手できない場合は、木杭に横竹を渡し、所々に稲わらを小束にしてつるす方法(図4)、それらがなければ果菜用の支柱材を立て、横に3段ほどプラスチックひもを渡し、キュウリの誘引ネット(網目15cm)を取り付けるなど、いろいろ工夫してみてください。

肥料分は多くは必要ないので、前作に野菜を育てた畑なら、越冬前に畝に沿って軽く溝を作り、1株当たり化成肥料大さじ2杯ぐらい、本支柱を立てた後に、畝の反対側に同量を施し、土を盛り上げて畝を形作るぐらいで足りるでしょう。

肥料・農薬のご紹介

水田畦畔の雑草防除に

カソロン 粒剤4.5



11月~2月散布で、長期間雑草を抑えます！来春の斑点米カメムシの発生を低減します！

【特徴】

- 長期間雑草を抑えます。
 - 粒剤なので、使用がすごく簡単です。
 - ギンギシ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシ等の難防除雑草によく効きます。
 - 平地や傾斜地へも楽に処理が出来ます。
 - 斑点米カメムシが産卵する雑草を枯らすので発生量を少なく出来ます。
- 均一に散布すれば、非常に抑制効果の高い除草剤です！

※「環境こだわり栽培」をされている方は使用できませんので、ご注意ください。

使用方法等ご不明な点は、各営農センターまで気軽にお問い合わせください。

